

プロフィール



14セットのマイクロマニピュレーターが
ずらっと並ぶ我々の自慢の研究室

| | |
|------------|--------------------------------------|
| 名前 | 若山 照彦 |
| 所属部署 | 山梨大学生命環境学部 生命工学科 及び 発生工学研究センター |
| 職種 | 教授・センター長 |
| この研究室が出来た日 | 2012. 4. 1. |
| 出身地 | 神奈川県横須賀市 |
| 趣味 | マイクロマニピュレー ターを使った実験！ |

インタビュー

Q1 現在の研究室の仕事内容を教えてください。

クローンマウスの作出やフリーズドライ精子、さらには宇宙ステーションを利用した生殖実験など様々なことをしています。バラバラなテーマに見えますが、実はすべて「自然ではあり得ない状況から子供を作る」という点で一致しています。

Q2 研究室の仕事の進め方は？

教員も学生も、完全に独立して自由に実験しています。一応学生には僕からテーマを与えますが、好き勝手にテーマを変更するのも自由です。ただし、毎週3回プログレスを行って変な方向に進んでしまった学生に軌道修正を指示しています。

Q3 まだ実験をしていますか？

実験は僕の趣味ですから、引退する日まで実験したいです。ただ、どうしても会議や授業、書類の締め切りなどで時間を取られるので、いまは週に2-3回しかできません。授業のない夏休みが待ち遠しいです。

Q4 この分野に入ったきっかけは何ですか？

高校生の時からこの分野の研究者を希望していて、茨城大学の家畜繁殖学研究室に入りました。そこで初めて読んだ論文がハワイ大学柳町隆造先生が書かれたもので、その時から柳町先生は僕のおこがれの人です。当時は雲の上の存在で、まさか自分が柳町先生のところへ留学できるとは思ってもいませんでした。

Q5 今、何を一番知りたいですか？

実は僕のラボにはこのような大きな目標はありません。ふと思いついたテーマ（〇〇の状況から子供が作れるか？）について様々な試行錯誤を試み、生まれることが証明できたら完全に終わりです。たとえば尿中の細胞からクローンが作れるか？というアイデアを思いついたら、ただひたすら試行錯誤を繰り返してクローンの作出を目指しますが、尿の中のどの細胞からどうやって生まれたのか、などには興味はないのです。

Q6 発生工学研究センターとはどんなところなのでしょうか？

2015年に山梨大学付属の研究センターとして発足した、マイクロマニピュレーターを専門とするユニークな研究所です。なにしろフル装備のマニピュレーターが14セット（岸上研のも合わせると17セット）もあり、世界最大級の施設となっています。そして学生たちに発生工学関連の技術すべてを習得させ、この分野で活躍する人材に育てあげます。もしこの技術を習得したい学生さんはぜひ若山までお問い合わせを。

Q7 最後に若手研究者へ一言。

僕の恩師柳町先生は、10回バカな実験をすれば1回当たる。10回当たればそのうち1回は大当たりになる（つまり100回バカ実験をすると1本Natureなどに掲載される！）と教えてくれました。その通りだと思います。実験する前に先生に言うと止められるので、黙ってこっそりとバカ実験を行ってください。成功したときだけ報告すれば怒られません（たぶん）。そんな研究者になってほしいです。